

# 地域の課題 現地訪れ探る

愛知淑徳大生 大紀で外国人客対策聞く



山添さんらから町内のインバウンド対策について聞く学生ら＝大紀町崎の山海の郷紀勢で

愛知淑徳大（名古屋市）で地域活性化について学ぶ生徒たちが大紀町を訪れ、過疎化や少子高齢化が進む地域の課題を探っている。今後、実地調査や地元住民との交流を通して観光や空き家対策などについて理解を深め、解決に向けた提案を行う。

参加するのは、交流文化学部の前島訓子准教授のゼミに所属する新三年生十六人。三月三十一日は、そのうち四人が町に足を運び、町地域活性化協議会の山添みゆき事務局長から町内のインバウンド（訪日外国人客）対策について聞いた。山添さんは、宿泊先で農

作業などを体験できる「農林漁業体験民宿」の需要を生かし、中国などからの教育旅行の受け入れに力を入れてきたと説明。新型コロナウイルス禍でもオンラインを活用したPR活動を続けているといい、「国の動きに注目しながら、（受け入れを）いつでも再開でき

るよう準備している」と話した。参加した飯谷陽向さん（20）は「観光地でなくても、民泊事業など人と人のつながりを観光に結び付ける取り組みがいいなど思っただ。民泊にも実際に泊まってみたい」と話した。（望月海希）

2022年4月2日（土）中日新聞 松坂紀勢版より  
この記事は中日新聞社の承諾を得て転載しています。